



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号



▶本校生は「丸」となって選手たちを応援した。



不屈の赤鬼魂

4回

4回表に相手に打者一巡、4点の追加を許し、裏は二死から走者一、二塁にしたものの無得点に終わった。5回表には相手に2本目のホームランを許し、裏は三者凡退に終わった。投手が松井拓真君（3―5）から、増居翔太君（2―4）に代わった6回はヒットを許しながらも0点に抑えた。

森田恭司校長先生は「まだこれから。応援をして流れを少しずつこつちに持ってきてほしい」とエールを送られた。森田昂佑君（3―7）の中学時代の担任だった島村忠宏さんは「これから1点ずつ返していって、最後には勝利してほしい」と期待を話された。野球部の大西彩斗君（3―5）は「点差が開き、

5回

こちらにもヒットを打っていないけど、いつも8・9回をマイゾーンとして集中してやってきたのでそこで逆転できると信じている」と想いを話した。

河瀬高校吹奏楽部のリーダーの南乃咲さんは「甲子園には初めて来たので緊張しているけど、野球部の力になれるように頑張つて応援したい」と意気込んだ。チアリーダーの指導を務められた村井三幸コーチは「今日のチアもすごく声が出ていて、とても頑張っていると思う。選手たちには最後まで楽しんで甲子園でプレーしてほしい」と微笑んだ。野球部の応援団長の辻和彦君（3―6）は「点差がついて



▶本校の攻撃時には多くの人が全力で選手たちにエールを送った。

6回

しまったが、ランナーが出れば状況が変わると思う。まずは先頭を出してほしい」と期待を述べた。

チアリーダーの代表である藤原穂香さん（2―4）は投手の増居翔太君（2―4）がマウンドに上がったことについて「途中からの出場でもしっかり抑えられていたのでも、このまま抑えていってほしい」と話した。野球部の南川亘輝君（3―6）は「点差は大きいけど諦めないで思いっきりプレーして逆転勝利してほしい」と、西前颯真君（1―6）は「あまりヒットを打てていないが思い切つてプレーしてほしい。チャンスはまだあるので諦めず、頑張つてプレーしてほしい」とそれぞれ選手への思いを述べた。



▼赤備えの応援団は選手たちを絶えず応援した。